

平成25年度  
ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI  
(研究成果の社会還元・普及事業)  
実施報告書

HT25016

【プログラム名】ニホンミツバチっておもしろい！ ～伝統養蜂の世界へようこそ～



開催日：平成25年10月13日(日)

実施機関：宮城教育大学(長崎県対馬市・  
(実施場所) 美女塚茶屋)

実施代表者：溝田浩二(環境教育実践研究  
(所属・職名) センター・准教授)

受講生：小学生21名

関連URL：<http://renkei.miyakyo-u.ac.jp/hirameki/index.html>

【実施内容】

【プログラム実施で留意、工夫した点】

- ・研究成果をわかりやすく伝えるために、イラストを多用したプレゼン資料、および、配布資料を配布した。
- ・室内での講義と、屋外での直接的な体験実習を交互に織り交ぜることで、受講生の集中力を持続できるよう工夫した。
- ・受講生と年齢の近い実施協力者を配置し、受講生に親しみやすい環境を演出した。
- ・採蜜体験、ハチミツの試食、キャンドル・ハンドクリーム・クレヨン作りというように、ミツバチからの恵みを直接体験できるようなプログラムを用意し、受講生の興味を喚起する工夫をした。
- ・キャンドル、ハンドクリーム、クレヨンは自宅へのお土産として持ち帰らせることで、プログラム終了後も家庭内で子どもの体験を共有できるように配慮した。

【当日のスケジュール】

- 9:00～9:30 受付
- 9:30～10:00 開講式(あいさつ、オリエンテーション、科研費の説明)
- 10:00～11:00 講義「対馬のニホンミツバチ伝統養蜂(講師:溝田)」
- 11:00～12:00 実習「採蜜体験(指導:養蜂名人・上野弘)」
- 12:00～13:00 昼食(美女塚茶屋)
- 13:00～13:30 講義「ミツバチからの贈り物を利用する知恵(講師:溝田)」
- 13:30～14:30 実習「キャンドル作り、ハンドクリーム作り」
- 14:30～15:00 クッキータイム(ホットケーキを焼き、蜂蜜を味わう)
- 15:00～16:00 実習「キャンドル作り、ハンドクリーム作り」
- 16:00～16:30 修了式(アンケート記入、未来博士号授与、記念撮影)
- 16:30 終了・解散



【講義のようす】



【養蜂名人による採蜜の実演】



【初めての採蜜体験】

### 【実施の様子】

9:30～10:00 開講式

科研費について、福井大学医学部・藤井豊教授より説明いただいた。

10:00～11:00 講義「対馬のニホンミツバチ伝統養蜂」

対馬の伝統養蜂の面白さについて、わかりやすく説明した。

11:00～12:00 実習「採蜜体験」

養蜂名人の指導のもと巣から蜂蜜を収穫し、採れたての蜜を味わった。

12:00～13:00 昼食

食後には10種のハチミツについてテイスティングを行った。

13:00～13:30 講義「ミツバチからの贈り物を利用する知恵」

ハチミツや蜜蝋等の利用方法について、わかりやすく説明した。

13:30～14:30 実習「キャンドル作り、ハンドクリーム作り」

二つの班に分かれ、キャンドル・ハンドクリーム、クレヨンを作成した。

14:30～15:00 クッキータイム

ホットケーキを焼き、採蜜したばかりの蜂蜜を味わった。

15:00～16:00 実習「キャンドル作り、ハンドクリーム作り」

二つの班に分かれ、キャンドル・ハンドクリーム、クレヨンを作成した。

16:00～16:30 修了式

アンケート記入、未来博士号授与、記念撮影を行った。



【採れたての蜂蜜を巣ごと味わう】



【キャンドルやクレヨン作り】



【顕微鏡でミツバチの体を観察】



【最後にみんなで記念撮影】

### 【事務局との協力体制】

研究・連携推進課 研究協力係が、委託費の管理、支出報告書の確認、日本学術振興会への連絡調整、提出書類の確認・修正、大学HPへの募集案内の掲載、周知ポスターの作成などを行った。

### 【広報活動】

・本プログラムの案内ポスターを作成し、実施者が対馬市教育委員会、対馬島内の小学校を訪問・配布した。

・大学の広報係と連携し、大学の広報誌やHPに募集案内を掲載した。また、本学で実施される「ひらめき☆ときめきサイエンス」をまとめたポスターを作成し、学内外に掲示した。

・対馬新聞に本プログラムの概要ならびに募集案内の記事を掲載した。

### 【安全配慮】

・実習の安全確保のために、受講生3～4人に対し1人の割合で補助者を配置した。

・実習ではミツバチを扱うため、実習直前に簡単な安全講習を行うとともに、実習時には覆面布の着用を徹底させた。

・万が一の刺傷事故に備え、ポイズンリムーバーおよび抗ヒスタミン剤を常備した。

・参加にあたっては、保護者の同意(送迎は保護者が責任をもつこと、ミツバチに刺される可能性があること)が確約されたことを条件とした。

・参加者全員を短期のレクリエーション保険に加入させた。

**【今後の発展性、課題】**

- ・アンケート結果では参加者(小学生および保護者)から高い評価を頂き、充実したプログラムが実施できたものと感じている。
- ・教員養成大学として、実施協力者の学生に子どもと接する機会を提供できた点も貴重な成果であった。
- ・大学が存在しない離島地域(対馬)でのプログラム実施には苦労も多かったが、現地の方々の献身的な協力をいただきながら無事に遂行できたことは大きな自信になった。

**【実施分担者】**

なし

**【実施協力者】**      9名

**【事務担当者】**

中嶋 恵里    研究・連携推進課・研究協力係